

今回は、幼児児童生徒本人との教育相談において、どのようなことを大切にしているのかについてお伝えします。

## 「教育相談で大切にしていること」

私たちが教育相談の中で大切にしていることの一つに、「本人の思いや願いを大切にした『対話』」があります。教育相談の主体は本人であり、本人のを中心に話をし合いをいつも心掛けています。相談担当者は、教育相談を通じて、本人が表出した思いや願いを受け止め整理します。その中で、主体である本人が気付くこと、自ら行動すること（行動しようとする）を支えています。その方法としての「対話」を私たちは以下のようにとらえています。

### 「対話」

- ・ 否定せず、本人の思いを最大限に尊重し、相手を知りたい、分かりたいと聴くこと
- ・ 本人の理解を深めるために、思いや願いについて質問しながら聞くこと
- ・ 前に進むために、お互いの理解をすり合わせようと伝えること

この「対話」を行うために、私たちは本人にとって安心して話をする事ができる相手であり、場所であろうと努力しています。私たちが教育相談を通じてかわる子どもたちの多くは、これまでの失敗経験や悲しい思いをしたことなどから、教育相談に来ること、他者に自分の思いを話すことに対する不安や恐怖心が少なからずあります。私たちは相談担当としての役割やスタンスを伝え、あなたという人を知りたい、分かりたい、一緒に考えたい思いを伝えています。



本人が「伝える」ことができるようになるために、私たちは「伝えやすい状況」や「伝えてみようとする気持ち」を本人と対話しながらつくり出します。そして、どのような内容であっても本人がつぶやいたことや、勇気を出して話したことを大切に受け止め、認めるようにしています。こうすることで本人は、相談担当者とかかわり、自分のことを話す教育相談の場に安心することができると思います。これは学校等でも同じではないでしょうか。

対話を通じて本人の見えない部分も含めて私たちが理解することから始まり、  
最後は、本人が自分を理解することにつながっていきます。

### 自分を理解することの先にあるもの

本人が等身大の自分を受け入れ  
自分を知っていくこと

考え、自己選択・自己決定、実行し、  
振り返ることで、また自己理解に生かすこと

自分の人生を切り拓いていくこと

すべての子どもたちに  
必要なこと

私たちは、子どもたちの伴走者として、子どもと向き合い、対話を通じて支え、子ども自身が自分と向き合えるようにすることを目指します。その一つ一つが本人の自立と社会参加につながることを願っています。

今回お伝えしたことが、様々な場所で少しでも生かされ、子どもたちのよりよい明日につながっていくと嬉しいです。